

「愛南町公立小中学校再編に関する答申書」に係る保護者説明会 会 議 録

- 1 日 時 令和3年10月21日(木) 18時30分～19時30分
- 2 会 場 愛南町立一本松中学校 一本松交流促進センター
- 3 参加者 保護者6名、教職員5名
- 4 事務局 中村教育長、岩井学校教育課長、近田課長補佐、西田課長補佐

5 会議の概要

- (1) 開会 進行:西田課長補佐
- (2) 開会挨拶 教育長 中村 維伯
- (3) 説明事項

ア 「愛南町学校統廃合検討委員会」について

(岩井学校教育課長)

イ 「愛南町公立小・中学校再編に関する答申書」の説明について

(近田課長補佐)

ウ 意見交換

課長:質問等はないでしょうか?

〇〇:基本的には賛成である。小学校は1校のままでいい。一本松中学校は城辺中学校に吸収されるという考え方でいいのか。まだ築30年である。城辺中のほうが古いのではないか。一本松中の方が災害の面でもリスクが少ない。

課長:まずは2校にして、最終的には1校になる可能性はある。検討委員会では、城辺が一本松に通うのは現実的ではない。城辺中、御荘中も老朽化はある。再編時に新築等も検討していく。

教育長:現実的には城辺から一本松は難しいという意見もあった。城辺の150名を通学させるための手立てが必要となる。少ない人数の方を考えていくのが現実的である。通学の負担を考えると仕方ない部分もある。このような意見がどんどんほしい。新築等の立地場所等も考えていただきたい。

〇〇:一本松から城辺に行く場合、学校名を愛南東等、一斉に変えていくのがいいのではないか。

課長:答申の中にもあるように、校名については清水PTA会長と同意の方向である。

〇〇:なぜ城辺と御荘なのかと思う。①城辺と御荘は距離が近い。②どちらかへの選択ができるのか。③部活動で別の学校に行っている方もいる。

課長:①城辺と御荘は近い→城辺と御荘、一本松も検討ではあったが現実的ではない。

②選択できるか→校区外通学は基準に従って認めている。今後も基準に従っていく。

③篠山小中→宿毛市の協議ではあるが、校区外申請の中に大きい側から小さい側からに行くことも3年前から認めている。

〇〇:一本松から篠山に流れるという可能性はないのか?

課長:再編された場合は、通学手段を保障する。新たな校区(校区外)は保護者の責任においてということになる。

〇〇:基本的には賛成である。部活の選択肢が増える。現在、一本松中には文化部が少ないこともある。小規模のアットホームな雰囲気が残る、田舎ならではのものが残るよという思いもある。

課長:地域のよさを残していくように検討をしていく。

教育長:部活の選択肢を増やしてほしいという意見はアンケートからも出ている。部活動の関係で校区外通学の希望はあるかもしれない。2校になった場合でも、2校とも同じ部活動というのは難しいかもしれない。意見としては、別々の部活動で校区外を認めていく等も視野に入れていく。

〇〇:私の親は小規模の環境で育ってきており、反対をしている。

課長:保護者からの声は、友達が増えて喜んでいるとの声も聞く。ここ数年は、統合して嫌だったという意見はでていない。

〇〇:中学生にとっては、力を発揮できることが大事である。学校名が気になっていたのも、新しい学校名でのスタートがいい。

〇〇:賛成である。

〇〇:私は〇〇出身であり、中学校になったら他の学校と一緒にするのが当たり前環境であった。一本松にきて、ずっと保育園から一緒に大丈夫かと思っていたが、小規模での活動を見てきていいなと思った。小規模は小規模のよさがある。地域とのかかわりは一本松ならではのよさである。再編しても地域とのかかわりを大切にしてほしい。そして、子どもたちが地域を支えていくようになってほしい。

課長:子どもたちの人間関係が崩れると難しくなる。1クラスではクラスを変えられない。机を離すくらいしかできない。クラス替えがあれば万が一、子どもの関係が崩れたとき、クラスを別にするなどの対応(救済)ができる。

課長:その他、学校のこと、愛南町のこと等、提言があればお願いします。

教育長:このあとの進め方。全体的には賛成の意見が多かったと捉えている。まずは、会長と今後の進め方を検討していく アンケートをとったり、会長と相談しながら進めていく予定である。

課長:学校等を通じて他の方の声も届けてほしい。

(4) 閉会